シリーズ 探訪 わが町文化財 その76

原始信仰の山　白山

白山は、有田川北岸の出・船坂区にある山で、有田川の南岸からは三角形の優美な姿を見ることができます。山の麓には田殿丹生神社が鎮座し、御神木である夏瀬の森のクスノキ（和歌山県指定文化財）の巨樹が目に留まります。白山という名前は、その山頂に勧請された白山神社に由来します。

白山のように人里の近くにあり、円錐形や笠のような形をした山は、「神奈備山」と呼ばれています。神奈備（神名備・神南備・甘南備などとも書く）とは、神が宿ると信じられてきた神聖な山や森などのことを指し、その中でも神奈備山がその象徴的な存在とされています。その典型例としては、奈良県桜井市の三輪山があり、そこに鎮座する大神神社には本殿がなく、三輪山そのものを御神体としています。三輪山の麓からは、1600年前に遡る古墳時代の祭りに関連する遺跡が数多く発見されており、古くから信仰対象であったことが明らかになっています。このように山を神が宿る聖地として崇め、信仰の対象とするのは神奈備信仰とも呼ばれ、社殿が整う以前の原始的な信仰の形とされています。

白山との関連が注目されるのが、弥生時代中期（約1900～2200年前）の集落跡である田殿尾中遺跡の存在です。田殿尾中遺跡は、有田川南岸の尾中区の中心に位置し、遺跡から北を望むと白山を正面に見ることができます。弥生時代の人々は、集落を構えるにあたり、古くから神が宿る聖地として崇められていた白山を正面に望む場所を選んだのでしょう。弥生時代は、米作りや金属の使用が始まり、土地や水、蓄積される富や鉄などをめぐって人々が争う時代でした。当時の人々は、平穏な生活を求め、白山に宿る神々に祈りを捧げていたことでしょう。

田殿尾中遺跡の環濠（集落の周りを巡る濠）の調査。正面に白山が見える。

●〒643-0021 和歌山県有田郡有田川町下津野2018-4
●有田川町役場企画調整課 TEL 0737-52-2111(代)
●E-mail b.kikakuzaisei@town.aridagawa.lg.jp
●ホームページURL http://www.town.aridagawa.lg.jp

VEGETABLE OIL INK